

## ワーク&ライフ・インターン ～通学しながら子育てを体験～

日本では女性の活躍の場が広がる一方で、継続就業を希望しながら出産で離職する女性もまだまだ多い。今回は、仕事と子育ての両立の現実を知った上で、学生が将来のライフキャリアを描くサポートビジネスを立ち上げた堀江敦子さんに、お茶大附属学校時代の学びやご自身の事業について話をうかがった。

*Horie Atuko*  
堀江 敦子



スリール 株式会社  
代表取締役

1989年お茶の水女子大学附属幼稚園入園。2003年附属高等学校卒業。同年、日本女子大学社会福祉学科入学。2007年日本女子大学社会福祉学科卒業。同年、大手IT企業入社。2010年退社、「スリール」を起業。最年少でワークライフ・バランス コンサルタント取得。内閣府のプロジェクトに参加する他、新宿区男女共同参画推進委員も務める。

### 原点はお茶大附属学校

「私の基盤を作ったのは附属学校の『自主自律』を徹底した自由な教育」と、感謝の思いと共に語る堀江さんは、幼稚園から高校まで15年間を茗荷谷のキャンパスで過ごした。「これをやりなさいと言われた記憶がなく、やり方は先生が教えてくれたけれど、全て自分で決めていました」。幼稚園でも自分で遊びをつくり、中学校では、「男らしく、女らしくではなく、自分らしく」という意味の「ジェンダー教育」を受けた。自主研究では、「児童虐待」をテーマに選び、養護施設を訪ねながらレポートを書き上げた。セピア色のレポート集を手に、「今と全く同じことを言っているんです!」と振り返る。堀江さんが「福祉をやりたい、そして人の意識を変えていきたい」と強く思うようになった原点はこの時代にある。その夢に近づくため、大学は社会福祉学科のある日本女子大学へ進んだ。

卒業後は、「想いを実現するために自分に力をつけたい」と、大手IT企業に就職。社内のワークライフ・バランス推進活動に関わったのをきっかけに、同期たちに職場の環境整備を呼び掛けた。しかし、仕事と子育ての両立に現実感が乏しいまま仕事に追われる仲間たちを見て、「当事者意識を育てるのは学生のうちに実感を体験するしかない」と、起業を思いついた。

### 学生と働くママを結ぶ

2010年、25歳で会社を起し、フランス語で「笑顔」を意味する「スリール」と名付けた。

「誰もが笑顔で自分らしいワーク&ライフを実現できるようサポートする」のがミッションだからだ。「仕事をしながら子育てって本当に出来るの?」という学生の疑問や不安への解決策として、共働き家庭で子育てを体験する「インターンシップ」をメインの事業に据えている。プログラムは、学生が保育士の有資格者のもとで研修を受けるところからスタート。36時間の研修後、2人1組体制で同じ家庭に3ヶ月間通い、保育所のお迎え、お風呂、寝かしつけなど子育て全般を体験する。受入れ家庭は月3万円の会員費をスリールに支払い、学生は交通費のみを受けとる仕組みだが、インターンシップ期間中は全員が体験を語り合い、将来を考える「場」が用意されている。

これまでに参加した学生は首都圏30大学の約150人。受入れ家庭は約50世帯を数える。学生には「キャリア支援」、家庭には「子育て支援」、社会には「少子化対策」という好循環の橋渡し役を担うスリールの活動は、起業3年目にしてさまざまなメディアに取り上げられ、注目をあびている。

### 「自分軸」を持って笑顔で

堀江さんは3人姉妹の末っ子だ。根っから子ども好きに加え、妹や弟が欲しくて中学生時代にベビーシッターを始めて以来14年も続けてきた。起業して1年目は、その経験をいかしながら、インターン生育成プログラムの充実に全力を注いだ。「しっかり根を張れば、いつか大木にもなれるし、花も咲く」と思う。企業や社会人向けの研修の依頼も多い。

しかし、堀江さんにとって、インターンOBが社会人になりイキイキと活躍する姿を見るのが何よりの喜びであり、事業を続ける大きな糧になっている。

スリールの目下の悩みは、インターン生受け入れを希望する家庭の増加に学生数が追いつかないことだ。そのため、堀江さんは機会があれば大学での講演に出かけ、活動への理解を得るための努力を惜しまない。また、学生のチームミーティング会場を確保することも毎回の課題だ。

座右の銘は「軸を持って流される」。ただ流されていると漂流してしまうけれど、自分軸さえもっていれば、周りが導いてくれると思う。明るい笑顔でいつも感謝の気持ちを忘れない堀江さんを応援する人は多い。

文責：坪田秀子(学長特命補佐)

### わたしのオフタイム

高校時代、「輝鏡祭」でミュージカル上演に燃えて以来、趣味はミュージカル鑑賞、そして旅行。最近はなかなか行けないので、自宅でヨガをしたり、キャンドルを炊いたり自分と向き合う時間を大切にしている。ポデイトリートメントでリラックスすることも。